

# 【No.7 ケアテックによる地域介護事業所のDX推進】

● **活動地域** 茨城県、神奈川県、千葉県、静岡県、高知県等

## ● 【ケアテックによる地域介護事業所のDX推進】の特徴

■ **特徴①介護の生産性向上**

■ **特徴②地域課題解決に貢献**

■ **特徴③産官学金連携**



日本ケアテック協会  
Japan CareTech Association



### 設立の背景・主な構成員

#### ● **地域DX推進コミュニティ設立の背景・きっかけ**

介護人材不足や、社会保障費の誇大化により介護保険制度の持続可能性が懸念されており、既に介護サービスの提供が危機的になっている自治体もある。日本ケアテック協会では、当事業代表者の宮本をはじめ、少ない人数で高品質な介護サービスを提供できるようケアテックによるDX化を推進しており、当事業を推進することに至った。

#### ● **代表機関：**

一般社団法人 日本ケアテック協会  
当事業の統括管理および経営伴走支援・マッチング支援の運営

#### ● **構成員：**

社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所（経営伴走支援）  
株式会社ビーブリッド（経営伴走支援）  
茨城県大子町役場（地域連携支援）  
慶応大学医学部 医療政策・管理学教室（研究支援）  
かながわ福祉サービス振興会（地域コミュニティ支援）等

### 支援活動の内容

#### ① **地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援**

経営層への介護サービスに関する収益性や生産性に関するヒアリングや財務諸表をもとにした経営分析、介護オペレーションに関する業務分析を行い、課題を抽出し戦略立案を行った。約20の企業へ、介護DX化に対するノウハウを持つ社会福祉法人善光会サンタフェ総合研究所および株式会社ビーブリッドが支援を実施。経営層への期間中の継続的な伴走支援や意見交換を実施。

#### ② **地域企業とソリューション提供事業者（ITベンダー等）とのマッチング**

伴走型支援先20社への個別の引き合いに加え、介護DXによる事例紹介やベンダーのプレゼンを行うニーズ・シーズマッチングイベントの開催により広く介護事業所とケアテックベンダーとのマッチングを図る。

#### ③ **その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動**

DX機運醸成に向けたセミナーの開催や、生産性向上に向けた介護DX導入効果測定指標の標準化を目的とした評価検証研究や、介護事業所のDX人材育成に向けた支援活動を実施。

## ● **キーパーソン**

➤ **代表機関名** 一般社団法人 日本ケアテック協会



➤ **宮本 隆史**（日本ケアテック協会理事）  
社会福祉法人善光会理事最高執行責任者として、業界に先駆け2009年頃より介護施設のデジタル化を図る。SCOP（スマート介護プラットフォーム）の開発で第5回日本医療研究開発大賞AMED理事長賞を受賞

➤ **構成員** 株式会社ビーブリッド



➤ **竹下 康平**（株式会社ビーブリッド代表）  
SE、システムコンサルタント等を経て、2007年より介護業界でのIT業務に従事。介護事業者向けITサポートサービス『ほむさぼ』を中心に、介護業界のICT利活用と普及のための相談・代行業務等を展開。  
※一般社団法人日本ケアテック協会 専務理事

● **問い合わせ先** 一般社団法人日本ケアテック協会 事務局 遠藤 丈文  
050-3174-4488 info@caretech.or.jp

# 【No.7 ケアテックによる地域介護事業所のDX推進】

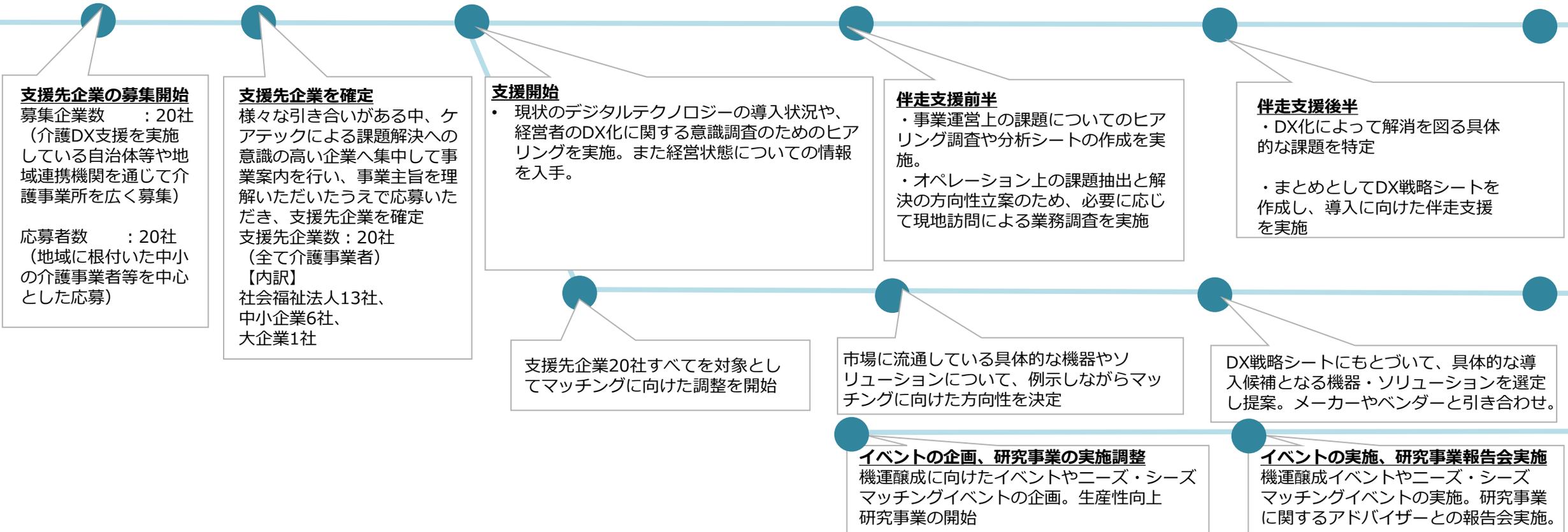
## 支援スケジュール（令和4年度実績）

第1term【5月】

第2term【9月】

第3term【12月】

第4term【2月】



### ・事業実績：支援を実施した企業数（①課題分析・戦略策定、②課題分析・戦略策定・ベンダーとのマッチングの内訳）、実績結果への所感等

20社支援の内、全支援先へ課題分析・戦略策定を実施。また、マッチング候補となるベンダーやメーカーの提示についても全支援先に実施しているが、実際に引き合いまで実施できているのは約3割程度。事業所側が本格的に導入するうえで、事業所側が経営状況やタイミングを図っているケースも多い

### ・波及効果について：

支援を実施していく中で、自治体関係者と協議を行うことも多く、支援先のみならず、今後DX化を図っていききたいと考えている介護事業所との様々な接点が生まれている。

### ・自走化への道筋：受益者負担の考え方、構成員への会費負担の引き上げ、広報活動の強化等

今回の支援内容を継続していくことを提案し、支援先からの当協会への入会や、有償によるコンサルティング支援の提案を実施していく。

# 【No.7 ケアテックによる地域介護事業所のDX推進】

## 支援好事例（令和4年度実績）

### 支援先企業名：社会福祉法人保内園

#### ● 支援先企業の概要：

- ・業種：社会保険・社会福祉・介護事業
- ・資本金：69,989,991円（基本金）
- ・従業員数：約50名
- ・主要製商品／サービス：介護事業（養護老人ホーム・グループホームの運営）



#### ● 支援先企業が抱える課題：

社会福祉法人保内園は養護老人ホーム泉荘、グループホームのどかを運営している。日々の運営する上での記録はすべて紙に記載しており、業務効率が低い状況が続いている。そこで、デジタル技術を活用し、記録の内容をクラウド上に一元管理する体制を構築したいと考えた。

#### ● 支援内容：

まずは、オンライン会議にて保内園の経営層からヒアリングを行い、課題の抽出と対策のための方策について会議を実施した。次に実際に保内園に訪問し、全ての記録の内容を把握を行った。それを踏まえ、各記録用紙のクラウド上に一元管理するプラットフォームの構築を提案した。プラットフォーム構築実現に向けて必要なシステムを取り扱う介護記録システムSCOPのマッチングを実施。SCOPで各記録の入力場所、入力方法の提案、活用に関する研修を実施した。

#### ● 支援成果：

記録の一元管理プラットフォームの構築に向けて、記録内容の整理（不必要な記録内容の削除等）→入力方法の整理（SCOPに入力する記録項目、内容の明確化）→システムの導入→記録入力研修等を進めていくこととしている。令和4年度中に導入、令和5年度上半期に実際に記録の実業務に至るためにベンダーとコミュニケーションをとっている。

#### ● 支援成功のポイント：

このコミュニティが所在する大子町では、地元ITベンダーとのDXのマッチングに取り組んでいる。大子町は、このコミュニティに構成員として参画しており、大子町の施設ネットワークを活用することで、DX化の意識の高い施設へマッチングに繋げることができた。また、支援施設の経営者と迅速にコミュニケーションを取り、経営者のリーダーシップの下、施設のDXを進めることができた。